

PEGAGA ペガガ



<学術名>

centella asiatica
(センテラアジアチカ)

<マレー名>

PEGAGA (ペガガ)

<日本名>

ツボクサ

<英名>

gotu kola (ゴツコーラ)

<アーユルベータ名>

Manduukaparni

<飲まれ方>

- ・ スキンケア
- ・ ニキビ、吹き出物
- ・ 静脈血行・皮膚の消炎
- ・ 物忘れ・頭

ペガガ(学名Centella asiatica)

化学成分

アシアチコシドおよびその他のトリテルペン、アジアティック酸、アシアチコシド、ブラミック酸(brahmic acid)、ブラミノシド(brahminoside)、ブラモサイド(brahmoside)、センテリック酸(centellic acid)、センテロサイド(centelloside)。

科学的研究

ペガガにはアジア全体で使用されてきた注目すべき歴史があります。ペガガは強壯法のラサーヤナ(Rasayana)をはじめ、血液浄化や記憶を促進する特性から、アーユルベータ医学の中で広範囲に利用されています。

研究は1949年にセンテラの作用機序に始まり、併せて癩によるただれや潰瘍への効果についても研究されました。初期の研究では抗菌作用が明らかになりましたが、より研究が進んだ1950年代には、植物が炎症の治癒と緩和を促進できるのは細網内皮系(RES)を刺激する作用によるものであることが示されました。

このRESは炎症や免疫応答と同様に、血球の形成と破壊に関与しています。

さらに研究が進みこの仮説が支持され、1970年代までにはセンテラのトリテルペンを含有する医薬製剤が、蜂窩織炎、皮膚の急性炎症、創傷治癒、およびリウマチ性の炎症を対象とする製品に広く使われるようになりました。

これは何らかの人工的な過程を設けるのではなく、正常細胞の修復過程を刺激して速めるものです。センテラは英国ハーブ薬局方にも、外皮用薬および末梢血管拡張薬として記載されています。

最近のヨーロッパでの研究の大半は、慢性静脈不全患者を治療するために、このセンテラの用法に重点を置いています。

ある試験では、静脈炎、毛細血管脆弱性、および静脈周囲炎患者125名のうちの72%が治療に成功しました。

ほかの試験での成功率は70~90%です。下肢の痙攣、浮腫、および夜間の痙攣などの症状がすべて緩和されました。

この植物が静脈不全、組織の炎症や感染症、術後の治癒に関与あるいは基づく症状の治療に最も有効な外用薬であることが明らかになりました。

脆弱性や弁の崩壊を予防する静脈の壁を強化することで色素が増します。これを定期的にご利用すると、静脈瘤および痔核の不快感が緩和され、また再発が防止されます。



用途

- § 体質改善(血液浄化)、強壮、利尿
- § 抗炎症性、抗リウマチ性
- § 皮膚病に、また癩の治療に
- § 静脈不全、静脈瘤症、浮腫、下肢の痙攣
- § 鎮静薬、トランキライザ、抗ストレス薬
- § 免疫促進薬
- § 強壮剤、知能および記憶保持力の向上
- § 抗潰瘍、また痔核の治療にも有用



皮膚の健康

皮膚の健康は身体の内部的の状態を映し出します。皮膚は重要な排泄器官として、さまざまな老廃物や塩分の排出に携わっています。

ほかの排泄器官(腸、腎臓、肝臓)で何らかの機能低下があった場合、汚染された大気や、食物、水から特別に負荷がかかるのと同じく、皮膚には非常に大きな負担がかかります。

こうして老廃物が皮膚内に層となって蓄積することにより、多くの皮膚障害がもたらされるほか、皮膚の健康状態が悪化します。

このような皮膚の症状に最も重要なハーブの療法は、外用ではなく、体内浄化と栄養摂取です。



黒色面皰、丘疹、にきび、せつ、および湿疹は、内部の皮膚層に十分に栄養が届いていない場合や、適切に排泄されていない毒素や老廃物が皮膚の表面に出る場合に生じます。

皮膚の健康を悪化させる別の要因には、加工された脂肪や精製された糖質を多く含む食事、運動や発汗の不足、ストレス、栄養不良、ホルモンの不均衡、およびアレルギーも考えられます。



健康的な血行は、動脈、静脈ともに適切に機能させます。皮膚の色を失わせ、体内の重力に抗って血液を送るために頻りに圧力下におかれてもろくなった血管壁が原因で鬱血するのは、特に静脈です。

これは下肢に高頻度で発生するもので、静脈瘤として知られています。もろくなった静脈や鬱血した静脈のほかの徴候には、下肢の痙攣、痔核、手足の冷えを伴う血行不良、易挫傷性、および体液貯留があります。



ペガガ プラスの配合ハーブの作用は次の通りです。

- 皮膚の健康、にきび、および炎症性の皮膚疾患の改善
- 身体からの不純物の除去
- 皮膚の治癒の促進
- 下肢の痙攣、体液貯留、静脈瘤などの静脈の血行不良を原因とする症状の改善。

